【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

Global Partner/Net VA

グローバルパートナー/Net VA

＊Global Partnerおよび Net VA は、弊社変額個人年金保険の販売名称です。

2017年度
（2017年4月～2018年3月）
特別勘定の現況
決算のお知らせ

ご契約者の皆様へ

日ごろは格別のお引き立てを頂き、誠に有り難く御礼申し上げます。
さて、弊社は去る3月31日に決算を迎えましたので、ここに特別勘定の運用状況をご報告申し上げます。
今後とも何卒ご愛顧の程よろしくお願い申し上げます。

【利用する投資信託の委託会社】

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社は、マルチ・エクスパートによる資産運用業務をグローバルに展開するアクサ・インベストメント・マネージャーズの日本法人として、機関投資家の資金や投資信託の運用を行う資産運用会社です。1987年の日本進出以来、ファンダメンタルズ情報と最新の運用テクノロジーを結合することにより、一貫した投資哲学に基づく株式のアクティブ運用を行うとともに、債券、オルタナティブ投資商品といった幅広い投資家のニーズに応える高品質な運用商品を提供しています。

アライアンス・バーンスタイン（以下、「AB」）*／アライアンス・バーンスタイン株式会社

アライアンス・バーンスタイン株式会社は、米国ニューヨークに本社を置くアライアンス・バーンスタイン・エル・ピーを中核とするABの日本拠点です。アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーは1971年の設立以来、資産運用会社として長年にわたる歴史を有し、世界各国の主要都市に業務展開を行い、個人投資家や富裕層、機関投資家向けに投資信託や年金運用等の投資サービスを提供しています。グローバルな調査体制を擁する世界有数の運用会社として、株式、債券、マルチアセット、オルタナティブ運用など、幅広い資産運用サービスや商品を提供しています。

*ABには、アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーとその傘下の関連会社を含みます。

- アクサ生命保険株式会社の「変額個人年金保険」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- 当資料は、アクサ生命保険株式会社の「変額個人年金保険」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 商品内容の詳細については「契約締結前交付書面（契約概要／注意喚起情報）(*)」、「リファレンスブック」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。
- 当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。

＊ 金融商品取引法の2007年9月30日完全施行により配布を開始しております。

変額個人年金保険
特別勘定の現況 （2017年4月～2018年3月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

運用環境 ［ 2017年4月～2018年3月 ］

【日本株式市場】

日本株式市場は上昇しました。年度末の東証株価指数（TOPIX）は前年度末比＋13.47%の1,716.30ポイント（前年度末1,512.60ポイント）となりました。年度の前半は、一時1,500ポイントを下回った後、シリアや北朝鮮の地政学リスクへの懸念後退や、欧米株式市場が上昇したことなどを背景に上昇しました。年度の後半は、安定した国内の政権運営や米国の税制改革法案に対する期待感などを要因に上昇し、1月には一時1,900ポイントを上回りました。その後、米金利の上昇などを背景とした米国株式市場の下落や、円高米ドル安などを要因に日本株式市場は下落基調で推移しましたが、年度を通じては上昇となりました。

【外国株式市場】

米国株式市場は上昇しました。年度末のNYダウ工業株30種は前年度末比＋16.65%の24,103.11ドル（前年度末20,663.22ドル）となりました。年度の前半は、上記の地政学リスクへの懸念後退、堅調な経済指標などを背景に上昇しました。年度の後半は、税制改革法案に対する期待感などを要因に上昇基調で推移し、1月下旬には26,616.71ドルを付けました。その後、米金利の上昇が嫌気されたことや、米国の対中貿易制裁に伴う米中貿易戦争への警戒感などから下落基調となりましたが、年度を通じては上昇となりました。欧州株式市場は市場によってまちまちの展開となりました。市場別の年間の騰落率は、独DAX指数-1.76%、英FTSE100指数-3.64%、仏CAC40指数＋0.87%となりました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、10年国債の金利が低下（価格は上昇）し、年度末には0.045%（前年度末0.065%）となりました。年度の前半は、上記の地政学リスクへの懸念後退などを受けて0.105%まで金利は上昇（価格は下落）しました。その後、株安、米金利の低下が進んだことなどから、一時-0.015%まで低下する場面がありましたが、米金利の上昇に連れて、金利は上昇しました。年度の後半は、10年国債の需給の引き締まりが意識されたことなどから金利は低下しましたが、その後、欧米債券の金利上昇や、12月初めの入札が不調となったことなどを背景に、金利は上昇しました。2月に日銀の国債買い入れオペレーションにおいて国債の買い入れ額が増額されたことなどを受けると、金利は低下基調で推移しました。

【外国債券市場】

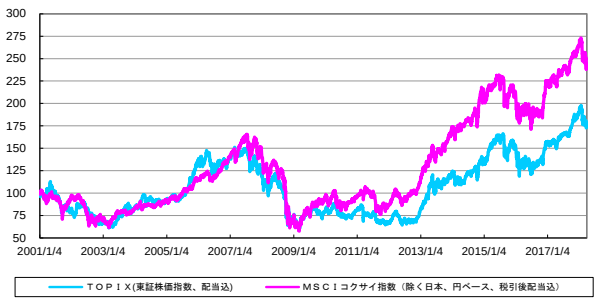
米国債券市場は、10年国債の金利が上昇（価格は下落）し、年度末には2.739%（前年度末2.387%）となりました。年度の前半は、上記の地政学リスク、欧州の政治リスクに対する見通しなどを要因に揉み合いで推移しました。年度の後半は、レンジ圏で推移した後、12月下旬に米国の税制改革法案が成立したことなどを受けて金利は上昇しました。平成30年に入った後も中国当局者らが米国債の購入を減額ないし停止すると勧告したと報じられたことや米経済の堅調さなどを背景に金利は2.954%まで上昇しましたが、年度末にかけては、米中貿易戦争への懸念などを背景に金利は低下（価格は上昇）しました。年度を通じては金利は上昇しました。年度中に、FRB(米連邦準備制度理事会)による、FF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標引き上げが3回行われ、計0.750%引き上げ、年1.500～1.750%となりました。欧州債券市場は、独10年国債の金利が上昇し、年度末には0.497%（前年度末0.328%）となりました。年度の前半は、上記の地政学リスク、欧州の政治リスクに対する見通しなどを要因に揉み合いで推移しました。年度の後半には、米金利の上昇や、ECB（欧州中央銀行）の金融緩和縮小に対する前向きな姿勢などを受けて金利は上昇傾向で推移し、0.8%超となる場面もありました。年度末にかけては2月に発表された独景況感指数やユーロ圏消費者物価指数速報値の軟調な結果や、ECB関係者が景気や物価に対して慎重な見解を示したことなどを背景に、金利は低下基調で推移しました。年度を通じては金利は上昇しました。

【外国為替市場】

米ドル/円相場は、円高米ドル安となり、年度末には106.24円（前年度末112.19円）となりました。年度の前半は、上記の地政学リスク、欧州の政治リスクに対する見通しなどを要因に揉み合いで推移しました。年度の後半は、米国の税制改革法案への期待感などから円安米ドル高傾向で推移しましたが、1月に日銀が国債買い入れオペレーションを減額したことなどを受けて円高米ドル安基調に転じ、3月下旬には104.93円を付けました。ユーロ/円相場は、円安ユーロ高となり、年度末には130.52円（前年度末119.79円）となりました。年度の前半は、上記の地政学リスク、欧州の政治リスクへの懸念後退などの影響で、円安ユーロ高で推移しました。年度の後半は、ECBの金融緩和の縮小に対する前向きな姿勢などを要因に円安ユーロ高で推移しましたが、年度末にかけては、2月に米金利上昇などを要因に世界的に株安となったことなどを背景に、リスク回避のため安全資産とされる円が買われ、円高ユーロ安基調で推移しました。年度を通じては円安ユーロ高となりました。

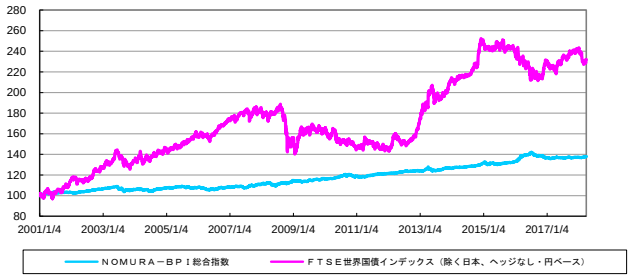
日本と外国の株式市場の推移

＊下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



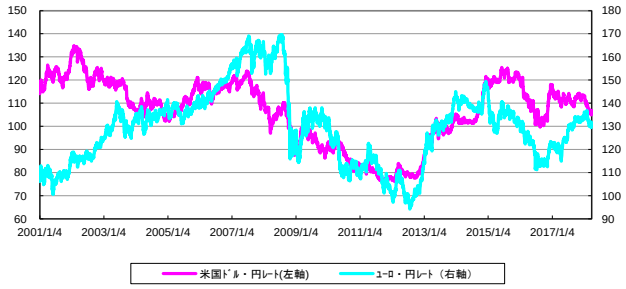
日本と外国の債券市場の推移

＊下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



※インデックスの名称が「シティ世界国債インデックス」から「FTSE世界国債インデックス」へ変更されました。

外国為替市場の推移



出所：株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信相場仲値

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先： カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ https://www.axa.co.jp/

変額個人年金保険
特別勘定の現況 （2017年4月～2018年3月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の種類と運用方針について

特別勘定名	基本資産配分比率	運用方針	利用する投資信託	
			投資信託名	委託会社
ライフ・ソリューション30 ※1	株式 30% 債券 70%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の30%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定型（B）〈適格機関投資家私募〉	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
ライフ・ソリューション50 ※1	株式 50% 債券 50%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の50%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定成長型（B）〈適格機関投資家私募〉	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
ライフ・ソリューション70 ※1	株式 70% 債券 30%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の70%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。	アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 成長型（B）〈適格機関投資家私募〉	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
日本株式	日本株式 100%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資します。	アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド（B）〈適格機関投資家私募〉	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
世界株式	世界株式 100%	マザー・ファンド受益証券への投資を通じて、日本を含む世界各国の証券取引所上場株式への投資を行い、信託財産の中長期的な成長をめざします。実質的な外貨建組入資産については、原則として為替ヘッジを行います。	アクサ IM・グローバル（日本含む）株式ファンド（為替ヘッジつき）〈適格機関投資家私募〉	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
世界債券	世界債券 100%	主として多種通貨建の投資適格格付確定利付証券に投資し、利息、配当収益、割引債券における償還差益および元本の変動等をもって、信託財産の長期的な成長を図ることをめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	アライアンス・バーンスタイン グローバル・ボンドⅡ・ポートフォリオ（クラスS1受益証券）	アライアンス・バーンスタイン・エル・ピー
マネープール※2 ※3	短期金融資産 100%	マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として円建ての短期公社債や短期金融商品に投資し、安定した収益の確保をめざします。	アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・ファンド（B）〈適格機関投資家私募〉	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

※ 特別勘定の種類、運用方針および委託会社等の運用協力会社は、将来変更されることがあります。
※ 特別勘定には、各種支払等に備え、一定の現金、預金等を保有することがあります。
※1 ライフ・ソリューション30・50・70の各投資信託について、アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社が運用指図権限を委託するグループ内の拠点が2018年1月1日に香港からフランスに変更されました。
※2 「マネープール」は株価、債券価格、為替等の変動の影響を受ける可能性が低いことを想定した特別勘定です。ただし、低金利環境下（マイナス金利を含む）では、「マネープール」の積立金の増加が期待できないだけでなく、諸費用の控除等により積立金が減少することもありますのでご注意ください。
※3 アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド〈適格機関投資家私募〉は、より安定した収益の確保を目指すため、投資対象の格付け、残存年数について、2017年11月30日に投資ガイドラインを厳格化もしくは明確化しました。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先： カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ https://www.axa.co.jp/

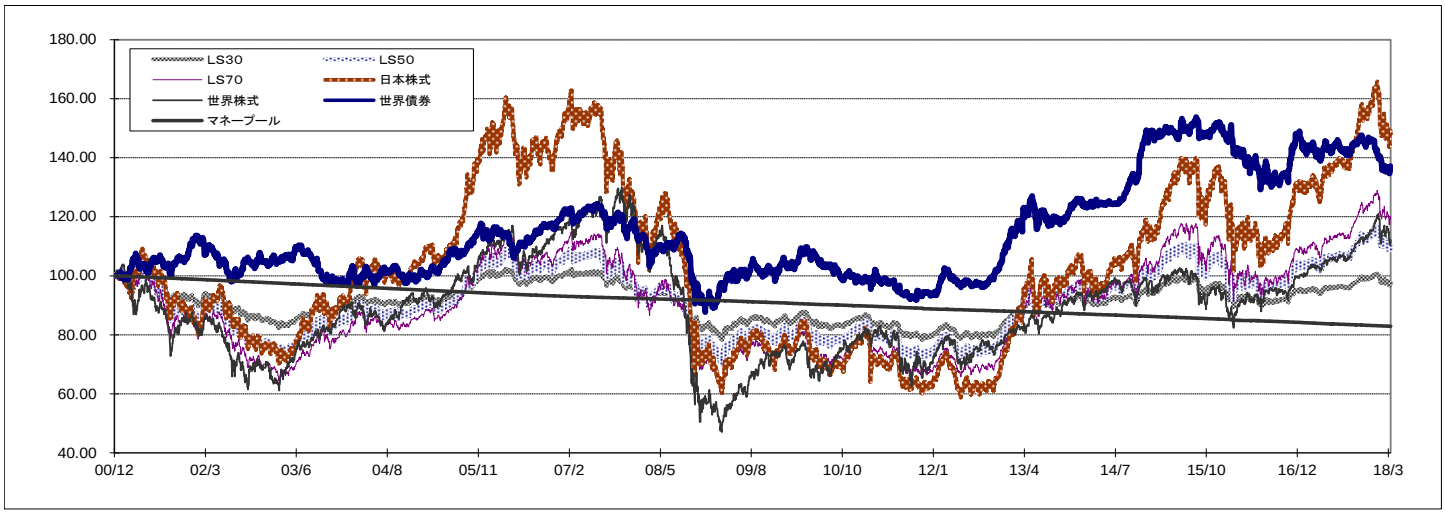
変額個人年金保険
特別勘定の現況　（2017年4月～2018年3月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の運用状況　[2018年3月 末日現在]

■特別勘定のユニットプライスの推移

※ 特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



■特別勘定資産の内訳

特別勘定名	資産残高 金額（千円）
ライフ・ソリューション30	1,598,399
ライフ・ソリューション50	4,762,936
ライフ・ソリューション70	3,395,896
日本株式	3,476,797
世界株式	2,087,204
世界債券	1,897,539
マネープール	405,003

※ 金額の単位未満は切捨てとしました。

用語説明

＊1「東証株価指数（TOPIX）」とは、東京証券取引所第一部に上場する国内株全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。
東証株価指数（TOPIX）は、株式会社東京証券取引所（以下㈱東京証券取引所）の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は㈱東京証券取引所が有しています。
㈱東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止、またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

＊2「S&P500種株価指数」とは、スタンダード&プアーズ社が公表している株価指数で、米国の主要500社によって構成されています。当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利はスタンダード&プアーズ社に帰属しています。S&P500種株価指数（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの）は、S&P500種株価指数（米ドルベース）に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整した上で円ベースに評価したものです。

＊3「MSCI欧州株価指数」とは、MSCI Inc. の算出する欧州株式市場の動きを示す指数です。MSCI欧州株価指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。
また、MSCI Inc. は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI欧州株価指数（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの）は、MSCI欧州株価指数（現地通貨ベース）に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整した上で円ベースに評価したものです。

＊4 ブルームバーグは、ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーの商標およびサービスマークです。バークレイズは、ライセンスに基づき使用されているバークレイズ・バンク・ピーエルシーの商標およびサービスマークです。ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーおよびその関係会社またはブルームバーグのライセンサーは、ブルームバーグ・バークレイズ・日本総合（3-7年）インデックスに対する一切の独占的権利を有しています。

＊5「日本円無担保コールオーバーナイト物レート」について。コール市場とは、民間金融機関が短期的な手元資金の余剰や不足を調整するための市場をいいます。
このコール市場において、金融機関間で、担保なしで、翌日に返済することを条件に、短期の資金を貸し・借りする取引に適用される金利を「無担保コールオーバーナイト物レート」といいます。

＊6「MSCIワールド・インデックス」とは、MSCI Inc. が世界の先進国株式市場のパフォーマンスを測るために開発した指数で、各国の株式時価総額等をベースに算出されたものです。
MSCIワールド・インデックスに関する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
MSCIワールド・インデックス（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース）は、MSCIワールド・インデックス（配当込み・グロス・現地通貨建て）に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整した上で円ベースに評価したものです。

＊7「ブルームバーグ・バークレイズ・グローバル総合インデックス」は、ブルームバーグ・エル・ピーが公表するインデックスであり、世界の投資適格債券市場のパフォーマンスをあらわします。
当該インデックスに関する知的財産権およびその他の一切の権利はブルームバーグ・エル・ピーに帰属します。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ https://www.axa.co.jp/

変額個人年金保険
特別勘定の現況　（2017年4月～2018年3月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　ライフ・ソリューション30　［ 2018年3月 末日現在 ］

■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

当期のユニットプライス騰落率等は下記をご参照願います。
当期は、米国では、良好な雇用情勢と堅調な経済指標のもと、株式市場は上昇しました。FRB（米連邦準備制度理事会）は、バランスシートの縮小と利上げを実行しました。2月には長期金利の上昇を受け、株式市場は急落しました。その後、落ち着きを取り戻しましたが、米中貿易摩擦の影響が懸念されています。欧州株式市場は、堅調な経済成長を受け、上昇基調でしたが、期末に生じた米中貿易摩擦への懸念が広がり、期を通じては下落となりました。日本株式市場は、好調な経済環境を背景に上昇基調で推移しました。日本債券市場は、日銀のイールドカーブ・コントロール政策が奏功し、長期国債利回りは低下しましたが、短期国債金利は若干上昇しました。利用する投資信託は、銘柄選択効果がパフォーマンスにプラス寄与しました。中でも日本株式の銘柄選択が大きくプラス寄与しました。今後も引き続き、当投資信託への投資を行う予定です。

■特別勘定のユニットプライスの推移

※　特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。

ライフ・ソリューション30			
ユニットプライス		騰落率（%）	
2018年3月末	97.62	過去1ヵ月	△ 0.92
2017年12月末	99.41	過去3ヵ月	△ 1.80
2017年9月末	97.36	過去6ヵ月	0.27
2017年6月末	96.01	過去1年	2.94
2017年3月末	94.83	過去3年	0.21
2016年12月末	94.73	設定来	△ 2.38

※　特別勘定のユニットプライスは、2000年12月18日のプライスを100．00として計算しています。
※　騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。
※　各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページ（下記参照）、およびインターネット対応の携帯電話（https://online.axa.co.jp/ClientWeb/mobile.jsp）にて各営業日にご確認いただくことができます。

■特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額（千円）
利息配当金収入	－
有価証券売却益	8,458
有価証券評価益	63,632
有価証券償還益	－
為替差益	－
その他収益	－
有価証券売却損	33
有価証券評価損	－
有価証券償還損	－
為替差損	－
その他費用及び損失	－
収支差計	72,058

■特別勘定資産の内訳

項目	ライフ・ソリューション30	
	金額（千円）	比率（%）
現預金・その他	71,219	4.5
その他有価証券	1,527,179	95.5
合計	1,598,399	100.0

※　特別勘定で利用している国内投資信託は、「その他有価証券」の項目に含まれています。
　　なお、当特別勘定で利用している投資信託は以下に記載しております。
※　金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定型（B）〈適格機関投資家私募〉　［ 2018年3月 末日現在 ］

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定型（B）〈適格機関投資家私募〉
【委託会社】　アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の30%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※　当投資信託は、主として
　アクサ ローゼンバーグ・日本株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉、
　アクサ ローゼンバーグ・米国株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉、
　アクサ ローゼンバーグ・欧州株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉、
　アクサ ローゼンバーグ・日本債券マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉、
　アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉
　に投資します。

■当投資信託の資産配分比率

・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

	基本資産配分	LSF安定型
日本株式	24.00%	25.60%
米国株式	3.00%	2.94%
欧州株式	3.00%	2.99%
日本債券	30.00%	29.37%
短期金融資産等	40.00%	39.10%
合計	100.00%	100.00%

※　各資産の投資信託欄は、原則、当投資信託における各マザー・ファンド保有率を記載しております。
　（短期金融資産等については、当投資信託で保有する現金等も含んでおります。）

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
LSF安定型	△0.85%	△1.58%	0.90%	4.35%	4.01%	19.76%
BM	△0.89%	△1.48%	0.76%	3.49%	4.77%	26.28%
差	0.04%	△0.09%	0.14%	0.86%	△0.75%	△6.52%

※　設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を起点として計算しています。
※　投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※　「BM」とは、合成ベンチマークを指します。
　合成ベンチマークの組合せの比率は以下のとおりです。

	投資信託
東証株価指数（TOPIX）*1	24.00%
S＆P500種株価指数*2（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの／円ベース）	3.00%
MSCI欧州株価指数*3（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの／円ベース）	3.00%
(※)ブルームバーグ・バークレイズ・日本総合（3-7年）インデックス*4	30.00%
日本円無担保コールオーバーナイト物レート*5により日々運用したときに得られる投資収益を指数化したもの	40.00%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　・5ページ～11ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、4ページに記載しています。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ https://www.axa.co.jp/

変額個人年金保険
特別勘定の現況　（2017年4月～2018年3月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

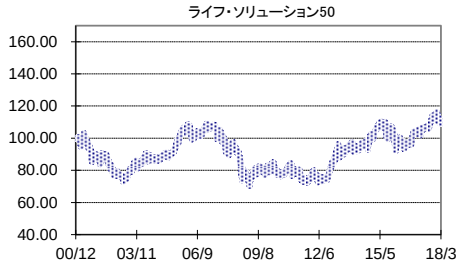
特別勘定　ライフ・ソリューション50　［ 2018年3月 末日現在 ］

■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

当期のユニットプライス騰落率等は下記をご参照願います。
当期は、米国では、良好な雇用情勢と堅調な経済指標のもと、株式市場は上昇しました。FRB（米連邦準備制度理事会）は、バランスシートの縮小と利上げを実行しました。2月には長期金利の上昇を受け、株式市場は急落しました。その後、落ち着きを取り戻しましたが、米中貿易摩擦の影響が懸念されています。欧州株式市場は、堅調な経済成長を受け、上昇基調でしたが、期末に生じた米中貿易摩擦への懸念が広がり、期を通じては下落となりました。日本株式市場は、好調な経済環境を背景に上昇基調で推移しました。日本債券市場は、日銀のイールドカーブ・コントロール政策が奏功し、長期国債利回りは低下しましたが、短期国債金利は若干上昇しました。利用する投資信託は、銘柄選択効果がパフォーマンスにプラス寄与しました。中でも日本株式の銘柄選択が大きくプラス寄与しました。今後も引き続き、当投資信託への投資を行う予定です。

■特別勘定のユニットプライスの推移

※　特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



ライフ・ソリューション50			
ユニットプライス		騰落率（%）	
2018年3月末	110.61	過去1カ月	△ 1.42
2017年12月末	113.68	過去3カ月	△ 2.70
2017年9月末	109.27	過去6カ月	1.23
2017年6月末	106.31	過去1年	6.64
2017年3月末	103.72	過去3年	4.15
2016年12月末	103.12	設定来	10.61

※　特別勘定のユニットプライスは、2000年12月18日のプライスを100．00として計算しています。
※　騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。
※　各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページ（下記参照）、およびインターネット対応の携帯電話（https://online.axa.co.jp/ClientWeb/mobile.jsp）にて各営業日にご確認いただくことができます。

■特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額（千円）
利息配当金収入	－
有価証券売却益	35,524
有価証券評価益	349,371
有価証券償還益	－
為替差益	－
その他収益	－
有価証券売却損	615
有価証券評価損	－
有価証券償還損	－
為替差損	－
その他費用及び損失	－
収支差計	384,280

■特別勘定資産の内訳

項目	ライフ・ソリューション50	
	金額（千円）	比率（%）
現預金・その他	196,891	4.1
その他有価証券	4,566,044	95.9
合計	4,762,936	100.0

※　特別勘定で利用している国内投資信託は、「その他有価証券」の項目に含まれています。
　　なお、当特別勘定で利用している投資信託は以下に記載しております。
※　金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定成長型（B）〈適格機関投資家私募〉　［ 2018年3月 末日現在 ］

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 安定成長型（B）〈適格機関投資家私募〉
【委託会社】　アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の50%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※　当投資信託は、主として
　アクサ ローゼンバーグ・日本株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉、
　アクサ ローゼンバーグ・米国株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉、
　アクサ ローゼンバーグ・欧州株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉、
　アクサ ローゼンバーグ・日本債券マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉、
　アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉
　に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1カ月	過去3カ月	過去6カ月	過去1年	過去3年	設定来
LSF安定成長型	△1.37%	△2.51%	1.91%	8.29%	8.30%	35.79%
BM	△1.49%	△2.50%	1.20%	5.84%	7.31%	34.59%
差	0.11%	△0.01%	0.71%	2.44%	0.99%	1.20%

※　設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を起点として計算しています。
※　投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※　「BM」とは、合成ベンチマークを指します。
　　合成ベンチマークの組合せの比率は以下のとおりです。

	投資信託
東証株価指数（TOPIX）*1	40.00%
S＆P500種株価指数*2（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの／円ベース）	5.00%
MSCI欧州株価指数*3（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの／円ベース）	5.00%
(※)ブルームバーグ・バークレイズ・日本総合（3-7年）インデックス*4	25.00%
日本円無担保コールオーバーナイト物レート*5により日々運用したときに得られる投資収益を指数化したもの	25.00%

■当投資信託の資産配分比率　・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

	基本資産配分	LSF安定成長型
日本株式	40.00%	42.96%
米国株式	5.00%	4.94%
欧州株式	5.00%	5.01%
日本債券	25.00%	25.66%
短期金融資産等	25.00%	21.44%
合計	100.00%	100.00%

※　各資産の投資信託欄は、原則、当投資信託における各マザー・ファンド保有率を記載しております。
　（短期金融資産等については、当投資信託で保有する現金等も含んでおります。）

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　・5ページ～11ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、4ページに記載しています。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ https://www.axa.co.jp/

変額個人年金保険
特別勘定の現況　（2017年4月～2018年3月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　ライフ・ソリューション70　［ 2018年3月 末日現在 ］

■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

当期のユニットプライス騰落率等は下記をご参照願います。
当期は、米国では、良好な雇用情勢と堅調な経済指標のもと、株式市場は上昇しました。FRB（米連邦準備制度理事会）は、バランスシートの縮小と利上げを実行しました。2月には長期金利の上昇を受け、株式市場は急落しました。その後、落ち着きを取り戻しましたが、米中貿易摩擦の影響が懸念されています。欧州株式市場は、堅調な経済成長を受け、上昇基調でしたが、期末に生じた米中貿易摩擦への懸念が広がり、期を通じては下落となりました。日本株式市場は、好調な経済環境を背景に上昇基調で推移しました。日本債券市場は、日銀のイールドカーブ・コントロール政策が奏功し、長期国債利回りは低下しましたが、短期国債金利は若干上昇しました。利用する投資信託は、銘柄選択効果がパフォーマンスにプラス寄与しました。中でも日本株式の銘柄選択が大きくプラス寄与しました。今後も引き続き、当投資信託への投資を行う予定です。

■特別勘定のユニットプライスの推移

※　特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。

ライフ・ソリューション70			
ユニットプライス		騰落率（%）	
2018年3月末	120.13	過去1カ月	△ 1.95
2017年12月末	124.62	過去3カ月	△ 3.61
2017年9月末	117.68	過去6カ月	2.08
2017年6月末	113.05	過去1年	10.19
2017年3月末	109.02	過去3年	7.71
2016年12月末	107.94	設定来	20.13

※　特別勘定のユニットプライスは、2000年12月18日のプライスを100．00として計算しています。
※　騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。
※　各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページ（下記参照）、およびインターネット対応の携帯電話（https://online.axa.co.jp/ClientWeb/mobile.jsp）にて各営業日にご確認いただくことができます。

■特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額（千円）
利息配当金収入	－
有価証券売却益	28,427
有価証券評価益	348,875
有価証券償還益	－
為替差益	－
その他収益	－
有価証券売却損	530
有価証券評価損	－
有価証券償還損	－
為替差損	－
その他費用及び損失	－
収支差計	376,771

■特別勘定資産の内訳

項目	ライフ・ソリューション70	
	金額（千円）	比率（%）
現預金・その他	144,849	4.3
その他有価証券	3,251,046	95.7
合計	3,395,896	100.0

※　特別勘定で利用している国内投資信託は、「その他有価証券」の項目に含まれています。
　　なお、当特別勘定で利用している投資信託は以下に記載しております。
※　金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 成長型（B）〈適格機関投資家私募〉　［ 2018年3月 末日現在 ］

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド 成長型（B）〈適格機関投資家私募〉
【委託会社】　アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。株式の実質組入れ比率は純資産の70%程度を基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※　当投資信託は、主として
　アクサ ローゼンバーグ・日本株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉、
　アクサ ローゼンバーグ・米国株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉、
　アクサ ローゼンバーグ・欧州株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉、
　アクサ ローゼンバーグ・日本債券マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉、
　アクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉
　に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1カ月	過去3カ月	過去6カ月	過去1年	過去3年	設定来
LSF成長型	△1.94%	△3.50%	2.76%	12.02%	12.02%	45.93%
BM	△2.10%	△3.52%	1.58%	8.11%	9.48%	40.97%
差	0.15%	0.01%	1.18%	3.91%	2.54%	4.96%

※　設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を起点として計算しています。
※　投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※　「BM」とは、合成ベンチマークを指します。
　　合成ベンチマークの組合せの比率は以下のとおりです。

	投資信託
東証株価指数（TOPIX）*1	55.00%
S＆P500種株価指数*2（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの／円ベース）	7.50%
MSCI欧州株価指数*3（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの／円ベース）	7.50%
(※)ブルームバーグ・バークレイズ・日本総合（3-7年）インデックス*4	17.50%
日本円無担保コールオーバーナイト物レート*5により日々運用したときに得られる投資収益を指数化したもの	12.50%

■当投資信託の資産配分比率

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります

	基本資産配分	LSF成長型
日本株式	55.00%	60.43%
米国株式	7.50%	7.41%
欧州株式	7.50%	7.34%
日本債券	17.50%	18.52%
短期金融資産等	12.50%	6.30%
合計	100.00%	100.00%

※　各資産の投資信託欄は、原則、当投資信託における各マザー・ファンド保有率を記載しております。
　（短期金融資産等については、当投資信託で保有する現金等も含んでおります。）

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　・5ページ～11ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、4ページに記載しています。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ https://www.axa.co.jp/

変額個人年金保険
特別勘定の現況　（2017年4月～2018年3月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　日本株式　［ 2018年3月 末日現在 ］

■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

当期のユニットプライス騰落率等は下記をご参照願います。
当期の日本株式市場は、前年度末比で上昇となりました。利用する投資信託については、ベンチマーク対比でプラスとなりました。当期の日本株式市場は株式の売買が活発に行なわれた銘柄が相対的に上昇する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはプラスへ寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で多めに保有していたトイレタリーが上昇したことや少なめに保有していた食品が下落したことはプラスに寄与しました。個別銘柄では、ベンチマーク対比で、多めに保有していたコーセー（4922）やネクソン（3659）が上昇したことはプラスに寄与しました。今後も引き続き、当投資信託への投資を行う予定です。

■特別勘定のユニットプライスの推移

※　特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。

日本株式			
ユニットプライス		騰落率（%）	
2018年3月末	149.17	過去1ヵ月	△ 2.43
2017年12月末	157.57	過去3ヵ月	△ 5.33
2017年9月末	144.58	過去6ヵ月	3.18
2017年6月末	137.45	過去1年	14.82
2017年3月末	129.92	過去3年	17.47
2016年12月末	128.93	設定来	49.18

※　特別勘定のユニットプライスは、2000年12月18日のプライスを100．00として計算しています。
※　騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。
※　各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページ（下記参照）、およびインターネット対応の携帯電話（https://online.axa.co.jp/ClientWeb/mobile.jsp）にて各営業日にご確認いただくことができます。

■特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額（千円）
利息配当金収入	－
有価証券売却益	106,902
有価証券評価益	465,426
有価証券償還益	－
為替差益	－
その他収益	－
有価証券売却損	833
有価証券評価損	－
有価証券償還損	－
為替差損	－
その他費用及び損失	－
収支差計	571,495

■特別勘定資産の内訳

項目	日本株式	
	金額（千円）	比率（%）
現預金・その他	160,517	4.6
その他有価証券	3,316,279	95.4
合計	3,476,797	100.0

※　特別勘定で利用している国内投資信託は、「その他有価証券」の項目に含まれています。
　　なお、当特別勘定で利用している投資信託は以下に記載しております。
※　金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド（B）〈適格機関投資家私募〉　［ 2018年3月 末日現在 ］

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド（B）〈適格機関投資家私募〉
【委託会社】　アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
【運用方針】
マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資します。

※　当投資信託は、主として
　　アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	△2.42%	△5.26%	3.97%	16.93%	22.63%	91.44%
BM	△2.94%	△5.57%	2.48%	13.47%	11.22%	33.12%
差	0.52%	0.31%	1.49%	3.46%	11.41%	58.32%

※　設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を起点として計算しています。
※　投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。
　　ベンチマークは、東証株価指数（TOPIX）[*1]です。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○　組入上位10銘柄

	銘柄	業種	マザーファンド
1	トヨタ自動車	輸送用機器	4.35%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.67%
3	本田技研工業	輸送用機器	2.49%
4	KDDI	情報・通信業	2.16%
5	キヤノン	電気機器	1.93%
6	東海旅客鉄道	陸運業	1.90%
7	アステラス製薬	医薬品	1.84%
8	日立製作所	電気機器	1.79%
9	武田薬品工業	医薬品	1.74%
10	三菱電機	電気機器	1.72%
合計			22.59%
組入銘柄数			170銘柄

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　・5ページ～11ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、4ページに記載しています。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ https://www.axa.co.jp/

変額個人年金保険
特別勘定の現況 （2017年4月～2018年3月）

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定 世界株式 ［ 2018年3月 末日現在 ］

■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

当期のユニットプライス騰落率等は下記をご参照願います。
当期の日本を含む世界株式市場は、堅調な経済指標や雇用環境を背景に上昇しました。利用する投資信託については、ベンチマーク対比でプラスとなりました。当期の世界株式市場は、市場全体に対しそれまで先行して上昇していた銘柄が相対的に上昇する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはプラスへ寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で多めに保有していたソフトウェアやITハードウェアが上昇したことはプラスに寄与しました。地域別では下落した北米地域の銘柄を多めに保有していたことはマイナスに寄与しました。個別銘柄では半導体・半導体製造装置における銘柄選択がプラスに寄与しました。今後も引き続き、当投資信託への投資を行う予定です。

■特別勘定のユニットプライスの推移

※ 特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。

世界株式			
ユニットプライス		騰落率（%）	
2018年3月末	112.16	過去1ヵ月	△ 3.38
2017年12月末	115.26	過去3ヵ月	△ 2.69
2017年9月末	109.00	過去6ヵ月	2.89
2017年6月末	105.05	過去1年	8.40
2017年3月末	103.47	過去3年	12.67
2016年12月末	99.29	設定来	12.16

※ 特別勘定のユニットプライスは、2000年12月18日のプライスを100．00として計算しています。
※ 騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。
※ 各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページ（下記参照）、およびインターネット対応の携帯電話（https://online.axa.co.jp/ClientWeb/mobile.jsp)にて各営業日にご確認いただくことができます。

■特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額（千円）
利息配当金収入	―
有価証券売却益	22,029
有価証券評価益	184,597
有価証券償還益	―
為替差益	―
その他収益	―
有価証券売却損	―
有価証券評価損	―
有価証券償還損	―
為替差損	―
その他費用及び損失	―
収支差計	206,627

■特別勘定資産の内訳

項目	世界株式	
	金額（千円）	比率（%）
現預金・その他	84,863	4.1
その他有価証券	2,002,340	95.9
合計	2,087,204	100.0

※ 特別勘定で利用している国内投資信託は、「その他有価証券」の項目に含まれています。
なお、当特別勘定で利用している投資信託は以下に記載しております。
※ 金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

アクサ IM・グローバル（日本含む）株式ファンド（為替ヘッジつき）〈適格機関投資家私募〉 ［ 2018年3月 末日現在 ］

■利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ IM・グローバル（日本含む）株式ファンド（為替ヘッジつき）
＜適格機関投資家私募＞
【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、日本を含む世界各国の証券取引所上場株式への投資を行い、信託財産の中長期的な成長を目指します。

※ 当投資信託は、主としてアクサ IM・グローバル（日本除く）株式マザーファンド受益証券ならびにアクサ ローゼンバーグ・日本株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	△3.42%	△2.49%	3.69%	10.16%	―	26.26%
BM	△2.39%	△2.42%	2.56%	9.25%	―	32.72%
差	△1.03%	△0.06%	1.13%	0.91%	―	△6.46%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2015年9月30日）を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※ 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、MSCIワールド・インデックス[*6]（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース）です。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

○ 組入上位10銘柄

	銘柄	国名	セクター	マザーファンド
1	AMAZON.COM INC.	アメリカ	小売	1.94%
2	APPLE INC.	アメリカ	テクノロジー・ハードウェア	1.92%
3	MICROSOFT CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.42%
4	JPMORGAN CHASE & CO.	アメリカ	銀行	1.40%
5	ALPHABET INC-CL A	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.30%
6	JOHNSON & JOHNSON	アメリカ	医薬品・バイオテクノ・ライフ	1.28%
7	FACEBOOK INC.	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.26%
8	MASTERCARD INCORPORATED	アメリカ	ソフトウェア・サービス	0.89%
9	MERCK & CO.INC.	アメリカ	医薬品・バイオテクノ・ライフ	0.80%
10	ROCHE HOLDING AG	スイス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	0.79%
合計				13.01%
組入銘柄数				765銘柄

※ 上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。 ・5ページ～11ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、4ページに記載しています。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先： カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ https://www.axa.co.jp/

変額個人年金保険
特別勘定の現況　（2017年4月～2018年3月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定　世界債券　［ 2018年3月 末日現在 ］

■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

当期のユニットプライス騰落率等は下記をご参照願います。
当期の当投資信託では、ユーロ圏およびアメリカの投資適格社債やユーロ圏の国債における銘柄選択が主なマイナス要因となったほか、ユーロ圏やカナダにおける残存期間戦略もマイナス要因となりました。一方、オーストラリアやニュージーランドを高めの組入れとし、日本を低めとした国別配分はプラス要因となりました。世界経済は、米国を中心に長期金利が上昇する中でも、拡張的な財政政策の支えにより先進国を中心に高成長が続くと予想しています。ユーロ圏経済は、国債購入縮小は経済情勢次第ではあるものの、順調に進むとみており、財政政策が成長を後押しすることで2018年の経済成長は加速すると予想しています。今後も引き続き、当投資信託への投資を行う方針です。

■特別勘定のユニットプライスの推移

※　特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。

世界債券			
ユニットプライス		騰落率（%）	
2018年3月末	136.86	過去1ヵ月	△ 0.34
2017年12月末	145.89	過去3ヵ月	△ 6.19
2017年9月末	145.00	過去6ヵ月	△ 5.61
2017年6月末	144.18	過去1年	△ 4.14
2017年3月末	142.78	過去3年	△ 8.70
2016年12月末	147.44	設定来	36.87

■特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額（千円）
利息配当金収入	56,387
有価証券売却益	1,902
有価証券評価益	－
有価証券償還益	－
為替差益	234
その他収益	－
有価証券売却損	3,890
有価証券評価損	112,450
有価証券償還損	－
為替差損	163
その他費用及び損失	－
収支差計	△ 57,980

※　特別勘定のユニットプライスは、2000年12月18日のプライスを100．00として計算しています。
※　騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。
※　各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページ（下記参照）、およびインターネット対応の携帯電話（https://online.axa.co.jp/ClientWeb/mobile.jsp)にて各営業日にご確認いただくことができます。

■特別勘定資産の内訳

項目	世界債券	
	金額（千円）	比率（%）
現預金・その他	82,358	4.3
その他有価証券	1,815,181	95.7
合計	1,897,539	100.0

※　特別勘定で利用している外国投資信託は、「その他有価証券」の項目に含まれています。
　　なお、当特別勘定で利用している投資信託は以下に記載しております。
※　金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

アライアンス・バーンスタイン―グローバル・ボンドⅡ・ポートフォリオ（クラスS1受益証券）　［ 2018年3月 末日現在 ］

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アライアンス・バーンスタイン―グローバル・ボンドⅡ・ポートフォリオ（クラスS1受益証券）
【委託会社】　アライアンス・バーンスタイン・エル・ピー
【運用方針】
主として多種通貨建の投資適格格付確定利付証券に投資し、利息、配当収益、割引債券における償還差益および元本の変動等をもって、信託財産の長期的な成長を図ることをめざします。原則として、投資信託の総資産の70%以上を米ドル建ての証券または米ドルをヘッジする証券に投資します。
※　当投資信託は、米ドル建ルクセンブルグ籍外国投資信託です。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	0.70%	△0.20%	0.39%	2.16%	6.75%	154.02%
BM	0.83%	△0.12%	0.68%	2.46%	6.11%	187.81%
差	△0.13%	△0.08%	△0.29%	△0.30%	0.64%	△33.79%

※　設定来の騰落率は、投資信託の設定日（1996年11月20日）を起点として計算しています。
※　投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※　「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、
　　ブルームバーグ・バークレイズ・グローバル総合インデックス*7です。

■当投資信託の詳細情報

・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

○　組入上位10債券種類

	銘柄	国名	格付		投資信託
			ムーディーズ	S&P	
1	アメリカ国債(8/15/19-8/15/21)	アメリカ	Aaa	AA+	8.87%
2	アメリカ国債(8/15/20)	アメリカ	Aaa	AA+	7.79%
3	スペイン国債(10/31/19)	スペイン	Baa2	A-	3.53%
4	日本国債(3/10/24)	日本	A1	A+	2.99%
5	カナダ国債(6/1/22)	カナダ	Aaa	AAA	2.59%
6	アメリカインフレ連動債(4/15/21)	アメリカ	Aaa	AA+	2.48%
7	ドイツインフレ連動債(4/15/20)	ドイツ	Aaa	AAA	2.36%
8	アメリカインフレ連動債(7/15/21)	アメリカ	Aaa	AA+	2.22%
9	カナダ国債(3/15/21)	カナダ	Aaa	AAA	2.06%
10	アメリカインフレ連動債(7/15/20)	アメリカ	Aaa	AA+	1.90%
合計					36.79%

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　・5ページ～11ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、4ページに記載しています。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ https://www.axa.co.jp/

変額個人年金保険
特別勘定の現況　（2017年4月～2018年3月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

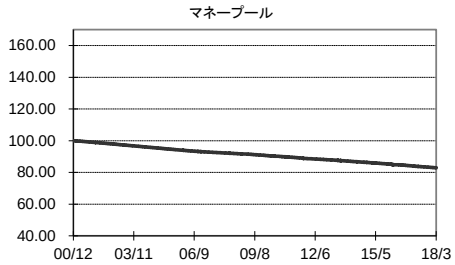
特別勘定　マネープール　［ 2018年3月 末日現在 ］

■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

当期のユニットプライス騰落率等は下記をご参照願います。
当期の日本短期債券市場は、前半では地政学リスクの後退や米国など海外市場の金利上昇の影響などを受け、短期国債利回りは上昇しました。後半は、日銀のイールドカーブ・コントロール政策が奏功しマイナス圏で推移しましたが、年度を通じてみると、日本短期債券市場の利回りは上昇しました。利用する投資信託では、サムライ債などの運用がプラス要因となり、年度のリターンはベンチマークを上回る結果となりました。今後も引き続き、当投資信託への投資を行う予定です。

■特別勘定のユニットプライスの推移

※ 特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



マネープール			
ユニットプライス		騰落率（%）	
2018年3月末	82.88	過去1ヵ月	△ 0.12
2017年12月末	83.14	過去3ヵ月	△ 0.31
2017年9月末	83.41	過去6ヵ月	△ 0.63
2017年6月末	83.66	過去1年	△ 1.19
2017年3月末	83.88	過去3年	△ 3.61
2016年12月末	84.22	設定来	△ 17.11

■特別勘定資産の運用収支状況

項目	金額（千円）
利息配当金収入	－
有価証券売却益	113
有価証券評価益	－
有価証券償還益	－
為替差益	－
その他収益	－
有価証券売却損	1
有価証券評価損	83
有価証券償還損	－
為替差損	－
その他費用及び損失	－
収支差計	29

※ 特別勘定のユニットプライスは、2000年12月18日のプライスを100．00として計算しています。
※ 騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。
※ 各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページ（下記参照）、およびインターネット対応の携帯電話（https://online.axa.co.jp/ClientWeb/mobile.jsp）にて各営業日にご確認いただくことができます。

■特別勘定資産の内訳

項目	マネープール	
	金額（千円）	比率（%）
現預金・その他	25,191	6.2
その他有価証券	379,811	93.8
合計	405,003	100.0

※ 特別勘定で利用している国内投資信託は、「その他有価証券」の項目に含まれています。
なお、当特別勘定で利用している投資信託は以下に記載しております。
※ 金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

アクサ　ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・ファンド（B）〈適格機関投資家私募〉　［ 2018年3月 末日現在 ］

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ　ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・ファンド（B）〈適格機関投資家私募〉
【委託会社】　アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
【運用方針】
マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として円建ての短期公社債や短期金融商品に投資し、安定した収益の確保をめざします。

※ 当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	△0.02%	△0.02%	△0.04%	0.00%	△0.08%	2.24%
BM	△0.01%	△0.01%	△0.02%	△0.05%	△0.03%	1.63%
差	△0.01%	△0.01%	△0.02%	0.05%	△0.05%	0.61%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、日本円無担保コールオーバーナイト物レート*5により日々運用したときに得られる投資収益を指数化したものです。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

○ 資産構成

	修正デュレーション	マザーファンド
公社債	0.70年	97.83%
短期資産等	0.00年	2.17%
合計	0.69年	100.00%

・ 比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。
※「修正デュレーション」とは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　・5ページ～11ページに記載されている「*1～*7」の用語説明は、4ページに記載しています。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-778-133
アクサ生命ホームページ https://www.axa.co.jp/

変額個人年金保険のリスク及び諸費用について　①

【投資リスクについて】

この保険は積立金額および年金額等が特別勘定資産の運用実績に応じて変動（増減）するしくみの変額個人年金保険です。
特別勘定資産の運用は、主として国内外の株式および公社債を主要投資対象とする投資信託を利用して運用され、
株式および公社債の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあります。
特別勘定資産の運用実績が積立金額に直接反映されますので、このリスクはご契約者に帰属し、ご契約者が損失を被ることがあります。
運用実績によっては、ご契約を解約した場合の払いもどし金額等が一時払保険料等を下回る場合があります。
特別勘定における資産運用の結果がご契約者の期待通りでなかった場合でも、当社または第三者がご契約者に何らかの補償・補填をすることはありません。

【諸費用について】

ご契約者などにご負担いただくこの保険の諸費用は、次のとおりです。

＜年金支払開始日前＞

●特別勘定のユニットプライス（単位価格）を計算する前にご負担いただく費用

項目	時期	費用	備考
契約初期費用（増額費用）	特別勘定繰入前	保険料の**2．0%**	保険料から契約初期費用として2．0%が控除された後の金額が積立金として特別勘定で運用されます。（増額費用も同じ）
保険契約管理費（積立金比例額）	毎日	特別勘定の積立金総額に対して **年率1．2%***	当社の経費に充当されます。（基本保険金額を死亡時に最低保証するための費用および災害死亡保険金のための費用を含みます。）

*　毎日その日の始めの特別勘定の積立金総額に年率1．2%の365分の1を乗じた金額を毎日その日の終わりの特別勘定の積立金総額から控除します。

●ご契約の内容と取引の内容による費用

特別勘定のユニットプライス（単位価格）を計算した後にご負担いただく費用は、次のとおりです。

項目	時期	費用	備考
保険契約管理費（件数比例額）	月単位の契約応当日	毎月　**100円**	契約1件あたり毎月の契約応当日の前日の積立金の合計額から控除します。
積立金移転費用	移転時	<書面による移転申込みの場合> 1回目**1,500円** 2回目以降は1回につき**2,300円** (*1)	毎回の移転について積立金から控除します。
		<インターネットによる移転申込みの場合> 月1回の積立金の移転は**無料** 2回目からは1回につき**800円** (*1)	1ヵ月に2回以上積立金の移転を行なう場合、2回目からの移転について積立金から控除します。
貸付利息	月単位の契約応当日および貸付金の返済時	貸付金額の年利**1．2%**	貸付金制度を利用されたとき、月単位の契約応当日および貸付金の返済時に、積立金から徴収します。
解約控除	解約時	積立金額の **8．0%～0．8%**	解約日が契約日または増額日より起算して10年未満の場合には、経過年数（1年未満切り上げ）に応じて、積立金額に対して解約控除率（8%から0．8%）を乗じた金額を積立金額から控除します。
	減額時	減額に相当する積立金額の **8．0%～0．8%**	減額日が契約日または増額日より起算して10年未満の場合には、経過年数（1年未満切り上げ）に応じて、減額に相当する積立金額に対して解約控除率（8%から0．8%）を乗じた金額を減額に相当する積立金額から控除します。

(*1) 月単位の契約応当日から翌月の契約応当日の前日までに積立金移転を行なった回数

※　貸付制度は、ご契約が成立後、会社の定める範囲内で何回でも貸付を受けることができます。

※　将来、上記の内容が変更になることがあります。

変額個人年金保険のリスク及び諸費用について　②

●その他間接的にご契約者にご負担いただく運用関係の費用は、次のとおりです。

項目	時期	費用	備考
運用関係費	毎日	ライフ・ソリューション30 **年率0．972%程度**(税抜0．900%程度)	特別勘定が利用する投資信託の純資産額に対して控除いたします。
		ライフ・ソリューション50 **年率1．080%程度**(税抜1．000%程度)	
		ライフ・ソリューション70 **年率1．188%程度**(税抜1．100%程度)	
		日本株式 **年率0．864%程度**(税抜0．800%程度)	
		世界株式 **年率0．540%程度**(税抜0．500%程度)注	
		世界債券 **年率0．460%程度** *1	
		マネープール **年率0．035100%～年率0．496800%程度** (税抜0．0325%～0．4600%程度) *2	

※ 運用関係費は、主に利用する投資信託の信託報酬率を記載しています。
信託報酬の他、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料及び消費税等の税金等の諸費用がかかりますが、これらの諸費用は運用資産額や取引量等によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。
また、各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの諸費用を間接的に負担することとなります。
これらの運用関係費は、運用手法の変更・運用資産額の変動等の理由により、将来変更される可能性があります。

*1 世界債券のみ、ルクセンブルグ籍の投資信託を使用しているため、管理報酬等を記載しております。
管理報酬等には、予め定率として決められている管理報酬および管理会社報酬が含まれます。
その他、お客様にご負担いただく手数料には、保管報酬、管理事務代行報酬、名義書換代行報酬、ルクセンブルグ大公国の法令に基づく税金等、有価証券の売買手数料、保有する有価証券の譲渡・償還益および配当やクーポンに対する源泉徴収税等の諸費用がかかることがありますが、運用資産額の取引量等によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。

*2 マネープールの運用関係費は、各月の前月最終5営業日における無担保コールオーバーナイト物レートの平均値に応じて毎月見直されます。

注：2015年10月より新たに利用している投資信託の信託報酬率です。
2015年10月29日に償還された投資信託の信託報酬率は年率0．918%程度（税抜0．850%程度）です。

＜年金支払開始日以後＞

●年金支払開始日以後にご負担いただく費用

項目	時期	費用	備考
年金管理費	年単位の 契約応当日	支払年金額の**1．0%**	年金支払開始日以後、年単位の契約応当日に責任準備金から控除されます。

※ 年金管理費は、将来変更となる可能性があります。